

令和2年度 自己点検・自己評価

「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」より

出水郡医師会広域医療センター附属阿久根看護学校

評価基準：・よく当てはまる:3 ・大体当てはまる:2 ・当てはまらない:1

令和2年度					
I	教育理念・教育目的	担当	評価点	評価	改善点・対策
1-1	教育理念・教育目的は、自養成所の教育上の特徴を示している。	貴島・玉利	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念や教育目的・目標は学生便覧や各教室に掲示している。また、学校案内やHPに掲載している。 ・令和2年度は宿泊研修が中止となりシンボルマークの作成が出来なかったが、今後も継続していく。 ・学校教育法、教育基本法、指定規則の要件に沿って運営している。 ・教育内容・教育方法が載っている授業計画の書式が揃っていないため、書式の統一が必要である。 ・教育環境として、教員・職員について便覧の運営機構や履修要覧に明示している。 ・卒業時点においてもつべき資質として、履修要覧に「本校のめざす看護師像」を載せている。 	専門分野において、授業計画の書式を統一して履修要覧に添付する。
1-2	教育理念・教育目的は法との整合性がある。		3		
2-1	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に示している。		3		
2-2	教育理念・教育目的は実際に学生の学習の指針になっている。		3		
3-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容を設定しているかを述べている。		3		
3-2	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育方法をとるかを述べている。		3		
3-3	教育理念・教育目的は、養成する看護師等の質を保障するために、どのような教育環境をとるかを述べている。		3		
4-1	教育理念・教育目的は、看護、看護学教育、学生観について明示している。		3		
4-2	看護、看護学教育、学生観は実際に教師の教育活動の指針となっている。		3		
5-1	教育理念・教育目的は、養成する看護師等が卒業時点においてもつべき資質を明示している。		3		
5-2	卒業時点にもつべき資質は、社会に対する看護の質を保障するのに妥当なものとなっている。	3			
令和2年度					
II	教育目標	担当	評価点	評価	改善点・対策
1	教育目標は、教育理念・教育目的と一貫性がある。	児玉・中原	3	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目的は、学生便覧、各教室に掲示、学校案内、ホームページに明記している。 ・新入生には入学時で理念・教育目的を説明し、理解するようにしている。 ・学生便覧に教育課程の構造図、科目目標・単位、授業進度が入っている。 ・卒業生の就労先への就労状況に対する評価については、母体病院のみ実施を行い、教育指導の課題が明確になってきている。 ・カリキュラム改正に向けて、教育理念から教育目的・目標の見直しと設定を行っている。 	卒業後の継続教育の必要性を示した上で、今後も母体病院以外の医療機関や施設にも卒業生の就労状況に対する評価を依頼し、情報共有を行い、教育指導への課題を明確にしている。
2-1	教育目標は、設定した教育内容を網羅している。		3		
2-2	教育目標は、最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとなっている。		3		
3-1	教育目標は、目標内容と到達レベルが対応している。		3		
3-2	教育目標は、具体的に実現可能なものとなっている。		3		
4	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長を促すための側面から教育目標を設定している。		3		
5	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、教育目標を設定している。	3			
令和2年度					
III	教育課程経営	担当	評価点	評価	改善点・対策
	<教育課程経営者の活動>	出口・東園	/	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム構築の上、学生便覧・校内内規・校務分掌・教務便覧に記載され、周知されている。また、学校管理マニュアルの中にも具体的に記載されている。 ・現在、新カリキュラムの運営に向けて、カリキュラム編成を行っている。しかし、編成・運営に向けた構成を示した文書は作成予定である。 	現在カリキュラム改正に向けて教育内容を検討中である。カリキュラム編成にあたって、運営方法などを表記し今後につなげる必要がある。 ・カリキュラム構成・運営に向けた文書を作成していく。
1-1	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育評価との関連性を明確に理解している。		3		
1-2	教育課程編成者と教職員全体は、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っている。		3		
	<教育課程経営者の活動>		/		
1-1	看護学の内容について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。		3		
1-2	学修の到達について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。		3		
1-3	学生の成長について明確な考え方と根拠をもって教育課程を編成している。		3		
	<科目、単元構成>		/		
1-1	明確な考え方と根拠をもって科目を構成している。		3		
1-2	明確な考え方と根拠をもって単元を構成している。		3		
1-3	科目と単元の構成の考え方は教育理念・目的、教育目標と整合性がある。		3		
2-1	構成した科目は看護師等を養成するのに妥当である		3		
2-2	構成した科目は養成所の特徴をあらわしている。		3		
	<教育計画>		/		
1-1	単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している。		3		
1-2	単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている。		3		
2	単位履修制の考え方を踏まえつつ、看護師等になるための学修の質を維持できるように、科目の配列をしている。		3		
	<教育課程評価の体系>		/		
1-1	単位認定の基準は看護師等に必要学修を認めるものとして妥当である。	3			
1-2	単位認定の方法は看護師等に必要学修を認めるものとして妥当である。	3			
2	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えている。	3			
3-1	教育課程を評価する体系を整えている。	3			
3-2	評価結果の活用における倫理規定を明確にしている。	3			

	<教員の教育・研究活動の充実>						
1-1	教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している。		3	<p>・教材研究時間の確保は業務の調整の上でできている。</p> <p>・2-1自己研鑽のための研修は新型コロナウイルス感染症流行に伴い、中止やリモートに切り替えとなった。リモート研修には積極的に参加しているが総数としては減る結果となった。</p> <p>・講師会議も新型コロナウイルス感染症流行のため中止となったため、教育方法などの情報交換の場は減少した。</p>	<p>・リモート下での研修に継続参加</p> <p>・新カリキュラム構築を通じ、教員間での教育観、教育内容方法などの共通理解を深めていく。</p>		
1-2	教員が授業準備のための時間をとれる体制を整えている。	3					
2-1	教育課程の実践者である教員が自ら成長できるよう、自己研鑽のシステムを整えている。	2					
2-2	教員が相互に成長できるよう、相互研鑽のシステムを整えている。	2					
	<学生の看護実践体験の保障>						
1-1	臨地実習施設は、養成所の個別の教育理念・教育目的、教育目標を理解している。		3			<p>・各実習要項を通じて教育目的や目標を説明し、理解していただいている。</p> <p>・臨地指導者の大まかな役割は要項説明の際に依頼している。しかし、施設や医療機関によって立場や役割も異なり、臨床の状況にも左右されるため、詳細は指導教員との打ち合わせのもと随時役割を担ってもらっている。</p>	<p>・詳細な役割は施設によって方針があるため、指導教員との打ち合わせをする。</p>
1-2	臨地実習施設は学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている。	3					
2-1	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者の役割を明確にしている。	2					
2-2	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、教員の役割を明確にしている。	3					
2-3	臨地実習指導者と教員の協働体制を整えている。	3					
3-1	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示している。	3					
3-2	対象者の権利を尊重する考え方に基づいて、学生への指導を計画的に行っている。	3					
4-1	臨地実習において学生が関係する事故を把握、分析している。	3					
4-2	学生に対する安全教育、安全対策を計画的に行っている。	3					

玉利・大川内

		令和2年度						
Ⅳ	教授・学習・評価過程	担当	評価点	評価	改善点・対策			
	<授業内容と教育過程との一貫性><看護学としての妥当性><授業内容間の関連と発展>							
1	授業の内容は、教育課程との関係において、当該学生のための授業内容として設定されている。		3	平成21年度改定の教育内容を設定し、科目目標達成のための授業内容を設定している。その授業内容は科目目標との整合性も取れている。看護学の教育内容としての妥当性もある。履修要覧のシラバス内に関連科目が示してあるが、現行カリキュラムの見直しにより重複部分も見えてきた。	*各科目間で重複部分について検討する。			
2-1	授業内容のまとまりの考え方を明確に述べている。		3					
2-2	授業内容のまとまりの考え方は、科目目標との整合性をもっている。		3					
3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある。		3					
4	授業内容間の重複や整合性、発展性等が明確になっている。		2					
	<授業の展開過程>							
1	授業形態(講義、演習、実験、実習)は、授業内容に応じて選択している。	児玉・中園・中原	3	*学生のレイダネスや授業内容に合わせ、科目担当教員・講師が授業形態を工夫している。 *担当教員が科目開始時に授業計画を明示し、指導内容について説明し実践している。 *学習の深化・発展するために講義がワンパターン化しないようグループワークやロールプレイを取り入れ学生が参加できる授業形態にしている。 *技術試験や演習では、複数の教員が指導に加わり、効果的に教育が行えている。専任教員間で授業内容の情報交換し重複し内容を確認している。				
2	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践している。		3					
3	授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している。		3					
4	学生に対し効果的な教育・指導を行うために、教員間の協力体制を明確にしている。		3					
	<目標達成の評価とフィードバック>							
1-1	評価計画を立案し、実施している。					3	*所定の様式を使用し、学生評価を実施している。 *評価表は、授業内容・授業方法・学生自己評価など多面的な評価方法を取り入れている。 *毎年学生評価を参考に、カリキュラム評価を行い、授業改善を行っている。 *教育目標にそって、各学年毎に達成可能な目標を学生便覧に段階的に示し、科目・実習・教科外活動などを通し評価している。 *令和2年度からは第5次カリキュラム改定に向けてあらゆる評価を活用して教育課程を見直しをしている。 *単位認定については、学生便覧の履修規定に示し、入学オリエンテーション及び単元初講時に説明している。また、公正性を保つために教員会議で協議を行っている。	
1-2	評価結果に基づいて、実際に授業を改善している。					3		
2-1	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れている。					3		
2-2	教育目標の達成状況を多面的に把握している。					3		
3-1	学生に単位認定のための評価基準と方法を公表している。					3		
3-2	単位認定の評価には公平性が保たれている。		3					
	<学習への動機づけと支援>							
1-1	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性がある。		3	*シラバスは、学生が理解しやすいように具体的に記述されており、授業開始時や必要時にシラバスを提示して意識づけを行っている。 *令和元年度より図書室、基礎実習室、パソコン室を開放し自己学習できる環境を提供している。				
1-2	シラバスの提示や学習への指導は、学生の学習への動機づけと支援になっている。		3					

		令和2年度				
Ⅴ	経営・管理過程	担当	評価点	評価	改善点・対策	
	<設置者の意思・指針>					
1-1	養成所の管理者は教育理念・教育目的についての考え方を明示している。	貴島・橋元	3	中長期計画の評価について教員会議で取り上げ共通理解を図った。そのうえで次年度の中長期計画(案)を提示した。		
1-2	養成所の管理者は教育課程経営についての考え方を明示している。		3			
1-3	養成所の管理者は教育評価についての考え方を明示している。		3			
1-4	養成所の管理者は養成所の管理運営等についての考え方を明示している。		3			
1-5	明示した管理者の考えと、設置者の意思とは一貫性がある。		3			
1-6	教職員は養成所の設置者と管理者の考え方を理解している。		3			
	<組織体制>					
1-1	養成所の組織体制は、教育理念・目的を達成するための権限や役割機能が明確になっている。			3	*校務分掌で役割機能を明確化している。 *権限移譲については、組織図に則っている。 *意思決定システムについては、教員会議・実習会議・職員会議で職員の意見を反映している。 *教職員の資質向上に向けては、カリキュラム改正についてのオンライン研修を教員全員が受講した。	
1-2	意思決定システムが明確になっている。			3		
1-3	意思決定システムは、組織構成員の意思を反映できるように整えられている。			3		
1-4	意思決定システムは、決定事項が周知できるように整えられている。		3			
2-1	組織の構成と教職員の任用の考え方と、教育理念・教育目的達成との整合性がある。		3			
2-2	教職員の資質の向上についての考え方と対策には教育理念・教育目的達成との整合性がある。		3			
	<財政基盤>					
1-1	財政基盤を確保することについての考え方が明確である。		3	*予算は中長期計画に基づいてたてている。 *コロナ禍で実習が臨地ではなく学内に切り替わり、配信映像を取り入れた。また教育環境としてWiFiを設置した。財政基盤が学習の質向上につながっている。 *財政について、予算・決算時期に職員会議で報告し、職員の意見を反映している。財政基盤については入学者数の影響も伝えている。	*年度ごとの財政基盤について職員にも周知していく。	
1-2	財政基盤を確保することについての考え方は、学習・教育の質の維持・向上につながっている。		3			
2-1	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解している。		2			
2-2	教職員のそれぞれの観点からの財政についての意見は、経営・管理過程に反映できるようになっている。		3			
	<施設設備の整備>					
1-1	学習・教育環境の整備について、管理者の考え方を明示している。		3	*高額備品、設備については中長期計画に含まれている。本校の役割や医療の動向に合わせて整備している。その他の備品は年次毎に必要な性を検討の上、整備している。 *毎年、備品チェック、点検を実施している。 *年2回、学習環境調査を実施している。	*多様な学生に対応するために、来年度はトイレの整備(和式から洋式へ)を計画している。 *経年変化により修理不能となった新生児バイタルサイン模型人形を次年度に購入予定である。	
1-2	管理者の考え方に基づいて整備計画を立案し、実施している。		3			
2-1	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備している。		3			
2-2	医療・看護の発展や学生層の変化に合わせて、施設設備を整備・改善している。		3			

3-1	養成所が設置されている地域環境との関連から学生および教職員にとっての福利厚生施設の整備を検討している。	出口・東園・永岡	3		
3-2	学生が学生生活を円滑に送り、教職員が職務を円滑に遂行できるように施設設備を整備している。		3		
	<学生生活の支援>		3	・学生相談窓口を設置し、相談内容によって、学年担当・進路担当・カウンセラーが対応している。 ・ストレスチェックを定期的に行い、ストレス度に合わせて継続的なサポートを行っている。	・社会活動の参加をより強化する必要がある。その一環として環境問題に対する活動を積極的に行う。
1-1	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に整えている。		3	・科目履修生に対しても単位取得へ向けて継続的に支援している。 ・奨学金制度について、全学生に対して案内を行い、経済的な支援体制を整えている。	・地域を理解し支える人材を育成する為に、地域特性を踏まえた、災害対策を公的機関と連携していくことを課題とする。
1-2	学生が活用しやすいように学生生活の支援体制を整えている。		3	・科目履修生に対しても単位取得へ向けて継続的に支援している。 ・奨学金制度について、全学生に対して案内を行い、経済的な支援体制を整えている。	
1-3	支援体制は、実際に学生に活用され、学修の継続を助けている。		3	・地域交流会やボランティア活動など、学生の社会活動参加を積極的に促し、体制を整えている。 ・学習困難者に対しては面接を行い、個人課題を与え学力向上に努めている。 ・卒業後の進路についても、学年担当が面接を行い、病院内や面接練習を実施している。	
	<養成所に関する情報提供>	橋元・永岡			
1-1	教育・学習活動に関する情報提供を関係者(保護者等)に行っている。		2	・保護者への情報提供は成績表の発送のみである。問題が生じた際は保護者への電話連絡、必要に応じて面接を行っており、学生への協力・支援を仰いでいる。	・保護者への学校の活動内容の報告手段として、Instagramを活用する。成績表の発送時にお知らせを同封する等の方法を検討する。
1-2	関係者(保護者等)への情報提供は関係者から協力・支援を得ることにつながっている。		2	・今年度より広報活動の一環としてSNS(Instagram)の利用を開始した。	・近年のSNSの普及により、広報活動には効果的な手段であるといえる。しかし、まだ有効活用できていない為、投稿内容、頻度、周知方法等を検討し内容の充実を図る必要がある。また、ホームページとの情報の住み分けを行い、互いを補完できるシステム作りが必要である。
2-1	看護師等を養成する機関としての存在を、十分にアピールする広報活動を適切に行なっている。		3	学生募集のポスターにQRコードを添付し、周知に努めた。来年度の受験者の中にはSNSをみて応募したという学生もいた。しかしホームページが更新されていない。	
2-2	広報の内容は、社会的説明責任を果たすものになっている。		3		

	<養成所の運営計画と将来構想>				
1-1	養成所は明確な将来構想のもとに、運営の中・長期計画、短期計画、年間計画を立案している。		3	・中期・長期事業計画を立案している。 ・実施・評価は教員会議で報告し、次年度の計画に反映している。	
1-2	その実施・評価は将来構想との整合性をもっている。		3		
	<自己点検・自己評価体制>				
1-1	自己点検・自己評価の意味と目的を理解している。	貴島・中原	3	・自己評価委員会規程があり、自己点検・自己評価の目的を示している。 ・評価は「評価の考え方」と「点検」を参考に、毎年度末に実施している。結果は、講師会議や第三者評価委員会で公表し、意見を頂きながらカリキュラム運営や授業実践に活用している。 ・第5次カリキュラム改正に向けて、評価結果をもとに教育理念、目的、目標の見直しにつなげている。	カリキュラム改正を前にして、自己点検・自己評価結果を理念や目的、目標の改善につなげるよう意識し始めている教員が多いと考える。今後も結果をもとにすべての教員が理念、目的、目標の維持改善に向けた話し合いが出来る場を設けることが必要と考える。
1-2	実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確にもっている。		3		
2-1	自己点検・自己評価体制を整え、運用している。		3		
2-2	自己点検・自己評価は、養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックするように機能している。		3		
2-3	自己点検・自己評価体制は、養成所の教育理念・教育目的、教育目標の維持・改善につながるように機能している。		3		

令和2年度

VI	入学	担当	評価点	評価	改善点・対策
1	教育理念・教育目的との一貫性をもって入学者選抜についての考え方を述べている。	貴島・出口	3	・本年度はコロナ禍により学校訪問による募集活動ができなかったが、SNS(Instagram)の開始や、学生募集のポスターにQRコードを添付し、周知に努めた。入学状況、推移については運営会議で報告している。 ・定員割れの状況が続く中、入学者選抜の妥当性については分析・検証できていない。	・入学者選抜についての妥当性の分析が課題である。
2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証している。		2		

令和2年度

VII	卒業・就業・進学	担当	評価点	評価	改善点・対策
1	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、計画的に行っている。	東園・大川内			
2-1	卒業時の到達状況を分析している。		2	・技術については技術到達評価を用いているが、総合した分析はできていない。 ・卒業生の就業状況や進学状況の把握、分析を運営会議や講師会議で報告している。 ・母体病院や実習病院への就職生については情報交換ができるが、問題の明確化には至っていない。 ・卒業後の活動状況把握はできていないが、証明書請求の機会などから把握できることもある。しかし、統計的に把握できず、活用にはつながっていない。	・新カリキュラムに向け、目標の到達状況評価と分析のシステム構築が必要である。 ・卒業後の活動状況の把握方法や情報の管理方法の検討し運用を目指す。
2-2	卒業生の就業・進学状況を分析している。		3		
2-3	卒業生の到達状況、就業・進学状況についての分析結果は、教育理念・教育目標との整合性がある。		3		
3-1	卒業生の就業先での評価を把握し、問題を明確にしている。		2		
3-2	卒業生の就業先との情報交換や調査の実施等ができる体制を整えている。		3		
4-1	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している。		1		
4-2	卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業の展開に活用している。		1		

令和2年度

VIII	地域社会／国際交流	担当	評価点	評価	改善点・対策
	<地域社会>				
1-1	社会との連携に向けて、地域のニーズを把握している。	中園・出口	2	・今年度は地域交流会の実施で、地域にどのような人が暮らしているのかわかる機会ができた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため様々な地域活動の中止や参加はできなかった。 ・直接的な参加はできなかったが、募金活動など地域貢献への参加は学生が主体的に実施することではできた。 ・看護教育活動と地域社会のニーズを把握する手段が具体化されていないため評価が難しい。	・新カリキュラムの中に「地域」のワードが組み込まれているため、世間の動向に注視し、地域のニーズや特徴を把握に努める。
1-2	看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的にしている。		2		
2-1	養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段をもっている。		2		
2-2	養成所から地域社会へ情報を発信する手段をもっている。		2		
3-1	養成所が設置されている地域の特徴を把握している。		2		
3-2	地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている。		3		
	<国際交流>				
1	国際的視野を広げるための授業科目を設定している。		3	・教育課程の中に国際看護や英語の授業をとり入れている。コロナ禍でもリモートで国際感覚を学ぶ機会を設けている。しかし、鼎国子女や留学生の受け入れや規定はない。海外で看護職に就く学生は委託病院などあるため希望する学生は在学中ではない。卒業時アンケートで「国際的観点からの医療・看護の役割の理解」ができないと回答した学生が3割	・コロナ禍であり、外国人との交流が難しいが、講師と協力し交流する場を設けていく必要がある。 ・教科外活動で国際交流や海外で看護職を経験した人の講話の機会など作る必要がある。
2	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境を整えている。		2		
3	海外からの鼎国学生や留学生の受け入れ体制を整えている。		1		
4	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制を整えている。		1		

令和2年度

IX	研究	担当	評価点	評価	改善点・対策
1	教員の研究活動を保障(時間的、財政的、環境的)している。	児玉・玉利	2	・今年度はコロナ禍により研修参加や自己研鑽に費やす時間の確保が困難であった。	・研究者となる教員の活動計画があれば調整可能であるとする。 ・研究活動を希望する場合は、学会入会や研究の研修参加を行い、研鑽する努力が必要である。
2	教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている。		3	・研究に関する助言などの体制は整っているが、研究に価値を置くという視点で考えると、支援しあう素地は現在のところない。	
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所内にある。		1		

自己点検・自己評価の項目別平均点(令和2年度)

自己点検・自己評価項目	平均点
I. 教育理念・教育目的	3
II. 教育目標	3
III. 教育課程経営	2.9
IV. 教授・学習・評価過程	2.94
V. 経営・管理過程	2.92
VI. 入学	2.5

Ⅶ. 卒業・就業・進学	2.14
Ⅷ. 地域社会／国際交流	2
Ⅸ. 研究	2